

令和7年度 伊賀市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和8年5月

伊賀市（三重県）

○計画期間：令和7年4月～令和12年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和7年度終了時点（令和8年3月31日時点）の中心市街地の概要

令和7年4月より、認定基本計画に基づき「城下町伊賀上野の文化・風土を市民で守り、次世代につなげ、新たなにぎわいを創出する」というテーマのもと、各事業を推進している。

特に、本計画の核となるにぎわい忍者回廊整備事業の一環である「旧上野市庁舎 SAKAKURABASE」「伊賀流忍者体験施設」の整備が完了し、集客機能の強化に期待が高まっている。

一方で、少子高齢化に伴う自然減、転出超過による社会人口減少や空き家の増加といった構造的な課題は依然として深刻である。一部のエリアでは空き店舗の利活用が進む兆しが見られるものの、全体としては空き家・空き店舗の増加に歯止めがかかっていない。特に、中心市街地における居住人口の社会増減数の改善に向けた取組が求められている。

今後は、新規整備施設の開業効果をいかに周辺地域へと波及させるかが重要課題となる。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（1）居住人口

（基準日：R8.1.1）

（中心市街地地域）	令和6年度 （計画前年度）	令和7年度 （1年目）	令和8年度 （2年目）	令和9年度 （3年目）	令和10年度 （4年目）	令和11年度 （5年目）
人口	6,954	6,899				
人口増減数		▲ 55				
自然増減数		▲ 90				
社会増減数		▲ 181				
転入者数						

2. 令和7年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和7年度の目標達成見通しから、達成できていない目標があるが、通行量や施設の利用者数については、施設の開館が予定より遅延したことが大きい要因であるため、

次年度以降に目標達成できる見込みであり、計画は概ね順調に進捗していると評価する。一方、人口の社会増という目標に対してはC評価と厳しい結果となっている。様々な事業などを展開しているにもかかわらず、空き店舗の活用が進まない現状や中心市街地が生活の拠点として選ばれない原因をさらに分析し、早急に対応する必要があると考える。協議会としては、伊賀市との定期的な会議を開催するなど、中心市街地活性化に関わる各主体間の連携を強化するとともに、現状分析や事業の見直しなどを促進していきたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
仕事と暮らしが調和した多世代が暮らしやすい生活環境の整った城下町	中心市街地における居住人口の社会増減数	▲52人 (H25～R5 累計)	50人 (R7～R11 累計)	▲181 (R7)	C	—	C
	【参考指標】 中心市街地の45歳未満居住人口	2,686人 (R5)	2,730人 (R11)	2,960 (R7)	A	—	A
地域資源がつながる歩いて楽しい立ち寄りたくなる城下町	中心市街地の歩行者等通行量	5,795人／日 (R5)	7,800人／日 (R11)	5,954 (R7)	B	—	A
	空き店舗等を活用した新規出店数	25件 (R1～R5 累計)	35件 (R7～R11 累計)	8 (R7)	C	—	A
歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し持続可能な魅力あふれる城下町	伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数	364,395人／年 (R1)	693,000人／年 (R11)	255,238 (R7)	C	—	A

1. 目標達成の見通し

＜基準値からの改善状況＞

＜基準値からの改善状況（※1）＞

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

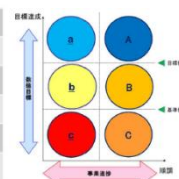
※上記について、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。

（例：a、b、c）

＜目標達成に関する見通し（※2）＞

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A	目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調）
a	目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調でない）
B	目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調）
b	目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調でない）
C	目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調）
c	目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調でない）



※目標値を現状数値の悪化率の抑制としている目標指標については、目標値と比較して数値が大きい場合には、「目標達成」、目標値には満たないものの目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）より大きい場合には「基準値より改善」、目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）より小さい場合には「基準値より悪化」として算出する。

2. 目標達成見通しの理由

「中心市街地における居住人口の社会増減数（累計）」については、令和7年末時点の累計実績は-181人となり、基準値（-52人）を大幅に下回る結果となった。

これは、中心市街地における転出超過の傾向が依然として続いており、移住コンシェルジュ事業や空き家居住支援事業等による転入促進効果が、転出の抑制に追いついていない状況である。

一方で関連事業は即効性のある事業ではないことが明らかであり、引き続き、事業を継続することで、まちなかの住環境の改善、魅力向上を進めることに繋がり、その結果として、転出超過の改善を図ることを目指していく。

また、並行して、定住を後押しする取組を強化しつつ、新たな取り組みについても積極的に取り組んでいく。

【参考指標】「45歳未満居住人口（単年）」については、令和7年度の実績は2,960人となり、目標値（2,730人）および基準値（2,686人）をともに上回り、目標を達成した。

これは、子育て支援事業による子育て世代の定住促進や、まちなか空き家居住支援事業による若年層の入居促進が一定の効果を発揮しているためと考えられる。引き続き、関連事業を継続することにより、計画期間終了時（R11）においても目標の達成が見込まれる。

「中心市街地の歩行者等通行量（単年）」については、令和7年度の実績は5,954人／日となり、基準値（5,795人／日）を上回る改善が見られた。

これは、忍者体験施設の開業や「新まちなか市・伊賀マルシェ」の継続開催等により、まちなかへの来街者が一定程度増加しているためと考えられる。

一方で、今期の目標値（7,426人／日）には達していない。

これは、目標値の設定時に見込んでいた交流型図書館（年間 208,418 人の入館予測）の開館が令和 8 年 4 月 1 日であり、新規施設による事業効果（290 人／日分）が令和 7 年度に発揮できなかったことなどが要因である。

令和 8 年度の図書館開館後は、新たな集客の拠点としての役割を果たし、にぎわい忍者回廊エリアマネジメントとの相乗効果による人の回遊の増加が見込まれ、結果として、市街地における通行量の大幅な増加に繋がることが見込まれる。

従って計画終了時（R11）には目標達成が見込まれると評価した。

「空き店舗等を活用した新規出店数（累計）」については、令和 7 年度の実績は 8 件となった。

計画期間（5 年間）における目標累計 35 件（年平均 7 件）に対し、初年度実績 8 件は目標達成に向けた妥当な数字である。

中心市街地での起業や開業のニーズは常に一定見込まれており、これらを伊賀市起業・経営革新促進事業による起業補助や、空店舗等情報システム整備及びコンサルタント事業によるマッチング支援が着実に機能していることで中心市街地への新規出店数が維持されている。

現在のペースを維持することで計画終了時（R11）に累計 35 件の目標達成が見込まれる。

「伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数（単年）」については、令和 7 年度の実績は 255,238 人となり、基準値（364,395 人）および目標値（693,000 人）を大幅に下回った。

最大の要因は、目標設定時に増加要因として見込んでいた交流型図書館（年間入館予測 208,418 人）の開館が令和 8 年 4 月 1 日となったことによるものである。

加えて、既存 11 施設についても、コロナ禍以降の観光動態の回復が完全ではない。

令和 8 年度以降は、図書館開館を起点とした「にぎわい忍者回廊」全体の一体的な集客促進を図り、各施設間の回遊性を高めることで、利用者数の回復を目指す。

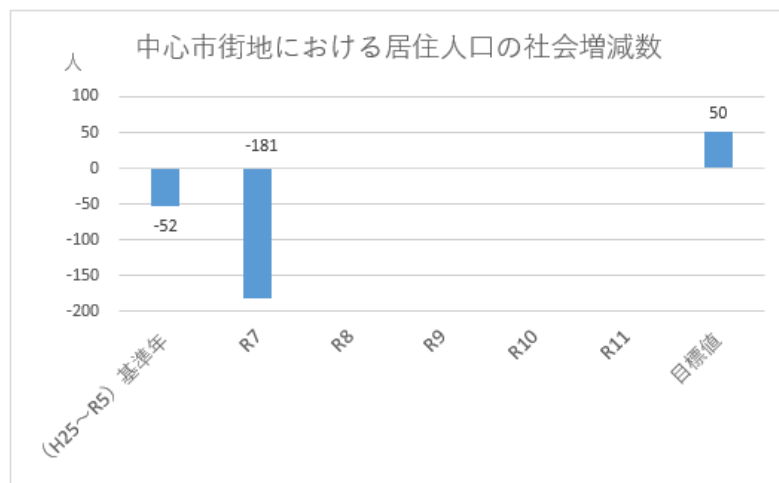
なお、令和 8 年 4 月 1 日に新図書館が開館し、4 月、5 月の来館者数は合計で約 9 万人であり、予想を上回る集客数であり、令和 8 年度以降、基準値（364,395 人）および目標値（693,000 人）の達成に向けて取り組んでいく。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標ごとのフォローアップ結果

(1) 「人口の社会増減数（累計）」



年	人
(H25～R5累計)	▲52 (基準年値)
R7	-181
R8	
R9	
R10	
R11	50 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳に基づく中心市街地エリアの社会動態（転入・転出数）を集計。

※調査主体：伊賀市

〈分析内容〉

令和7年末時点での累計実績値は-181人となり、目標値（+10人）に対して大幅減となった。

一定数の転入・転居があるが、それ以上に転出・転居が上回っていることが確認でき、社会増減数のプラス転換には至っていない。

いかに転出・転居を抑制するかが課題であり、更なる住環境の向上を目指す必要があると認識している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①町家等修理修景事業及び助成事業

事業実施期間	2008（平成20）年度～【実施中】
事業概要	城下町の風景を保存する目的で、伊賀街道・大和街道沿線及び寺町地区景観計画指定地域内の優れた景観形成に寄与すると認められる建築物等に、費用の一部を助成する。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2025（令和7）年4月～2030（令和12）年3月）
事業目標値・最新値	助成金の交付申請2件、事前審査申請4件

及び進捗状況	
事業の今後について	制度の認知度の向上を図り、助成制度の活用を促進を図る 事前審査申請の制度を設け、事業の確実性を担保する

②伊賀市合併処理浄化槽設置整備事業

事業実施期間	2022（令和4）年度～【実施中】
事業概要	合併処理浄化槽への転換費用を助成し、まちなかの住環境を向上させる。
国の支援措置名および支援期間	新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）【内閣府】 （2025（令和7）年度～2026（令和8）年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	汚水処理人口普及率を目標指数とする 【事業目標値】85.3% 【最新値】84.8% ・合併処理浄化槽への転換をおこなうには、個人負担や物理的制約がある為、整備が遅れている。
事業の今後について	・合併処理浄化槽の普及に向け、引き続き啓発活動を行う。 ・適切な助成金の確保

③伊賀市空き家対策総合支援事業

事業実施期間	2016（平成28）年度～【実施中】
事業概要	空き家の再生・除却費用を補助し、安全安心な生活環境を保全する。 空き家の利活用の推進を図る
国の支援措置名および支援期間	空き家対策総合支援事業【国土交通省】 （2017（平成29）年度～2026（令和8）年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	「伊賀流空き家バンクを通じた成約件数」を目標の指数とする。 【目標値】225件の成約 【実績】17件の成約
事業の今後について	

④子育て支援事業

事業実施期間	2005（平成17）年度～【実施中】
事業概要	「子育て包括支援センター」にて相談・交流事業を実施し、若年層の居住を支援。

国の支援措置名および支援期間	重層的支援体制整備事業交付金【厚生労働省】 2025（令和7）年度～2029（令和11）年度
事業目標値・最新値 及び進捗状況	「子育て支援センター」の年間利用者数を目標指数とする。 【目標値】10,000人 【実績値】12,866人 ・年間利用者数の目標値を上回る。（129%）
事業の今後について	更なる利用の促進を目指し、LINE等を活用し、積極的な情報提供を行う

⑤まちなか空き家居住支援事業

事業実施期間	2025（令和7）年度～【未実施】
事業概要	居住目的の空き家購入およびリフォーム費用を助成し、居住人口を増やす
国の支援措置名および支援期間	「空き家対策に要する経費等調」の特別交付税措置【総務省】 （2025（令和7）年度～）
事業目標値・最新値 及び進捗状況	未定
事業の今後について	新たな制度設計を行い、令和10年度からの運用開始を目指す。

⑥移住コンシェルジュ事業

事業実施期間	2019（令和元）年度～【実施中】
事業概要	移住相談・情報発信を行い、定住に向けた総合的なサポートを提供する。
国の支援措置名および支援期間	「移住・定住対策に要する経費に関する調」の特別交付税措置【総務省】 （2025（令和7）年度～）
事業目標値・最新値 及び進捗状況	伊賀市への移住者数を目標指数とする 【目標値】150人 【最新値】144人 ・移住コンシェルジュが、移住希望者ひとりひとりに寄り添ったきめ細やかなサポートを行うことにより移住者獲得に繋がった。 ・自治会との繋ぎ役を行うほか、移住後もサポートを継続し定住に繋げている。 ・移住ポータルサイト「iga style」や、Instagram等で市の情報を積極的に発信した。
事業の今後について	・空き家コンシェルジュによる相談体制、空き家見学ツアー等の実施、都市部での移住相談会の実施、SNSを活用したプロモ

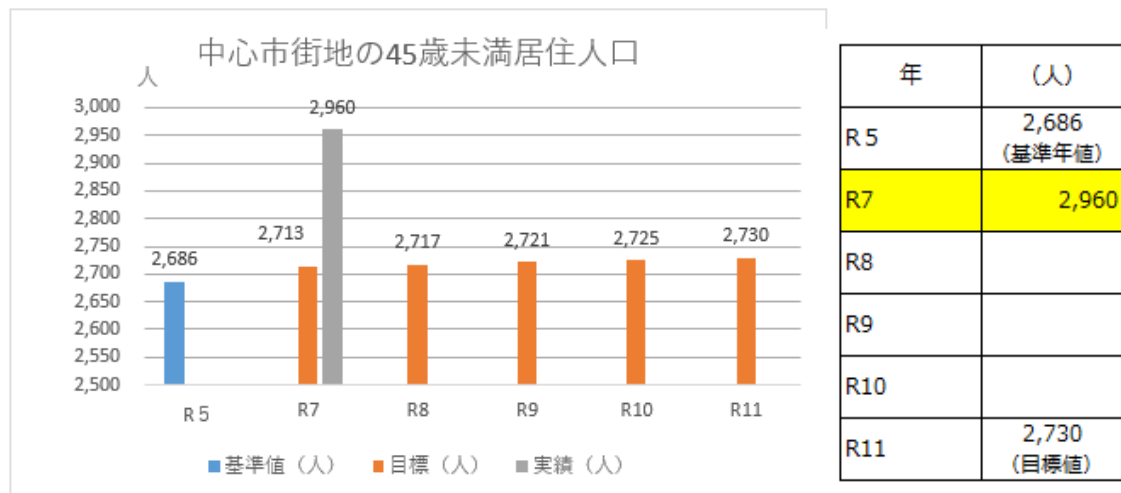
ーション等、従来からの取り組みを継続して行っていく。
・若者、子育て世帯を対象とした支援を継続していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和7年度は、人口社会増減数において厳しい結果となった。（-181）

今後は、既存の定住促進事業に加え、中心市街地が生活の拠点として選ばれる環境整備に官民連携で取り組む。

（2）参考指標 中心市街地の45歳未満居住人口



※調査方法：住民基本台帳に基づく中心市街地エリア内の45歳未満人口を集計。

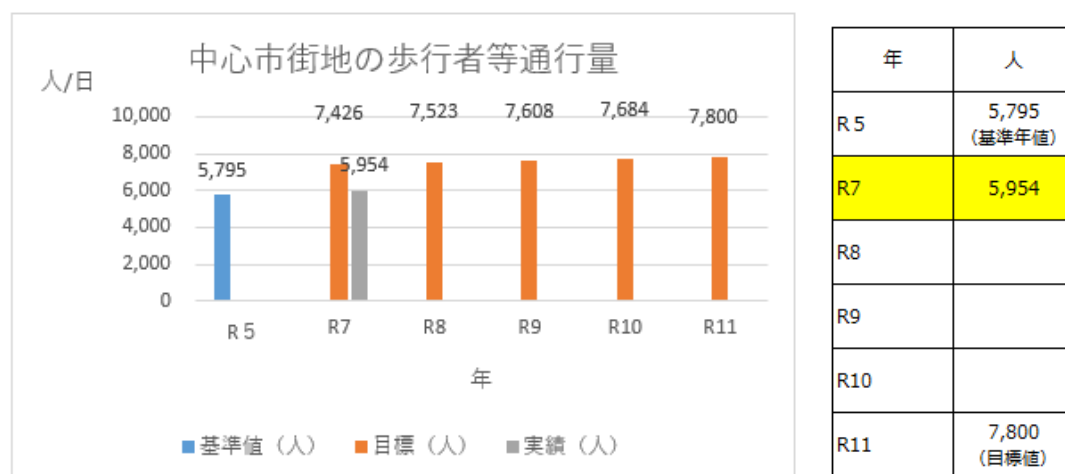
※基準日：毎年9月31日時点

※調査主体：伊賀市

【分析内容】

令和7年度の45歳未満居住人口は2,960人となり、目標値（2,730人）を大幅に上回る結果となった。2022(R4)年度の2,659人を底として、近年は上昇傾向に転じており、基準値（2,686人）と比較しても274人の改善が見られた。

(3) 「中心市街地の歩行者等通行量」



※調査方法：ビッグデータによる計測

既存の通行量調査は目視による計測を行っていたが、本計画をより戦略的に進めるため、スマートフォンのGPS機能を活用した人流測定システム「Datawise Area Marketer」から得られるビッグデータ※1により、歩行者等通行量※2の分析を行う。

※調査主体：伊賀市

		9月末時点人口 (単位：人)					
		令和6年度 (計画前年度)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
実測値(ビッグデータ)	①ハイトピア	20,242	18,009				
	②新天地南口	14,921	13,654				
	③本町通郵便局	4,912	4,554				
	④まちやガーデン伊賀	7,543	7,758				
	⑤丸之内交差点	8,353	7,450				
	⑥白鳳門	19,730	18,774				
	⑦岡三証券/銀駐	20,586	18,130				
	⑧忍者体験施設	4,122	4,268				
	合計	100,409	92,597				
アルゴリズム変更による補正值		100,409	92,597				
実測値(補正)		6,456	5,954				

※中心市街地内15地点(ハイトピア伊賀前、新天地南口前、上野本町通郵便局前、まちやガーデン伊賀前、丸之内交差点、白鳳門前、岡三証券前、銀座中央駐車場前、忍者体験施設前、他6地点)

<分析内容>

令和7年の通行量実績は5,954人/日となり、基準値(5,795人/日)を上回る改善が見られた。(令和7年の目標値には達していない)

これは、「にぎわい忍者回廊」における「SAKAKURA BESE」や「伊賀流忍者体験施設」の整備による集客や、伊賀マルシェ等のイベント開催による集客効果が良い影響をもたらしたと考えられる。

一方で、目標値（7,800人／日）には未達であり、特に一部の計測地点では通行量の伸び悩みが確認された。

これは周辺施設との連携不足や、広域的な周遊導線の未整備が要因であると分析している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①城下町回遊性向上のための方策検討事業

事業実施期間	2025（令和7）年度～【完了】
事業概要	上野公園と城下町を繋ぐ南北通路の導線整備検討。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2025（令和7）年4月～2026（令和8）年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	丸之内地下道を南北の最適な動線と結論付け、清掃・環境改善を図ることで新規ルート整備よりも効果的かつ低コストで課題解決できるとの結論に至った。
事業の今後について	事業完了

②交流型図書館運営活用事業

事業実施期間	2026（令和8）年度～【実施中】
事業概要	旧上野市庁舎の複合施設化。学びと交流の拠点運営。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2026（令和8）年4月～2030（令和12）年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	①貸出利用者数、学習室利用者数、イベント参加者数、レファレンス件数等の合計値 ②イベント開催回数 ①②を目標指数とする 【目標値】①60,000人/年②80回/年 【最新値】①66,680人②86回
事業の今後について	図書館に設置するご意見箱へ届いた利用者のニーズ把握や分析を行い、ニーズに沿った運営を行う。

③にぎわい拠点創出事業

事業実施期間	2023（令和5）年度～【実施中】
事業概要	白鳳プラザでの地域コミュニティ・チャレンジショップ運営。
国の支援措置名 および支援期間	なし
事業目標値・最新 値及び進捗状況	白鳳プラザの使用日数を目標指数とする 【目標値】915日 【最新値】173日 ・『朝市』『作品展』『おもてなしの場』『地域のコミュニティの場』としての活用は十分できた。 ・空き店舗の持ち主と事業をしたい方との相談会は実施できなかった。 ・チャレンジショップとしての活用もなかった。
事業の今後につ いて	・『朝市』は新たな納品者を募集する。 ・『朝市』をやっていることを宣伝する。 ・チャレンジショップを積極的に募集する。・空き店舗での開業相談窓口である事をPRする。

④旧上野市庁舎運営活用事業

事業実施期間	2025（令和7）年度～【実施中】
事業概要	にぎわい忍者回廊の中核施設（観光案内・宿泊等）の運営。
国の支援措置名 および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2025（令和7）年4月～2030（令和12）年3月）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	「旧上野市庁舎 SAKAKURABASE」が令和7年7月に部分開業（観光案内、宿泊施設、カフェ）、新たな施設としての運営を開始。
事業の今後につ いて	令和8年4月1日に伊賀市中央図書館が開館。これにより、「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」全館の運用が開始した。

⑤忍者体験施設運営活用事業

事業実施期間	2025（令和7）年度～【実施中】
事業概要	忍者体験や食・物産提供による観光客誘致
国の支援措置名 および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2025（令和7）年4月～2030（令和12）年3月）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	・開業が遅れたが令和7年8月27日に無事オープンした。 ・様々なメディアに取り上げられ、スタートの情報発信としては良かった。 ・インフルエンサーなどを活用して自社SNSなどで情報発信の

	努力をしている。
事業の今後について	平日の入込改善に向けた団体などの受け入れを促進する

⑥にぎわい忍者回廊エリアマネジメント事業

事業実施期間	2024（令和6）年度～【実施中】
事業概要	回廊内の整備拠点を活用・連携させ、観光客が心地よく滞在できる環境を整え、回遊性を向上させ、滞在時間の向上を図る。
国の支援措置名および支援期間	なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	にぎわい忍者回廊の核となる旧上野市庁舎と伊賀流忍者体験施設を整備し、令和7年7月に「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」としてホテル、観光案内所・物販、カフェが先行オープンした。また、令和7年8月には「伊賀流忍者体験施設」の運用が開始された。新たな核となる二大拠点を活用し、伊賀市のにぎわいづくりを創出する。
事業の今後について	・「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」の中央図書館が開館することで、施設整備が完了する。 ・事業者間の連携及び市や関係団体の連携を強化し、にぎわい忍者回廊の回遊性向上につなげることが必要。

⑦新まちなか市「伊賀マルシェ」開催事業

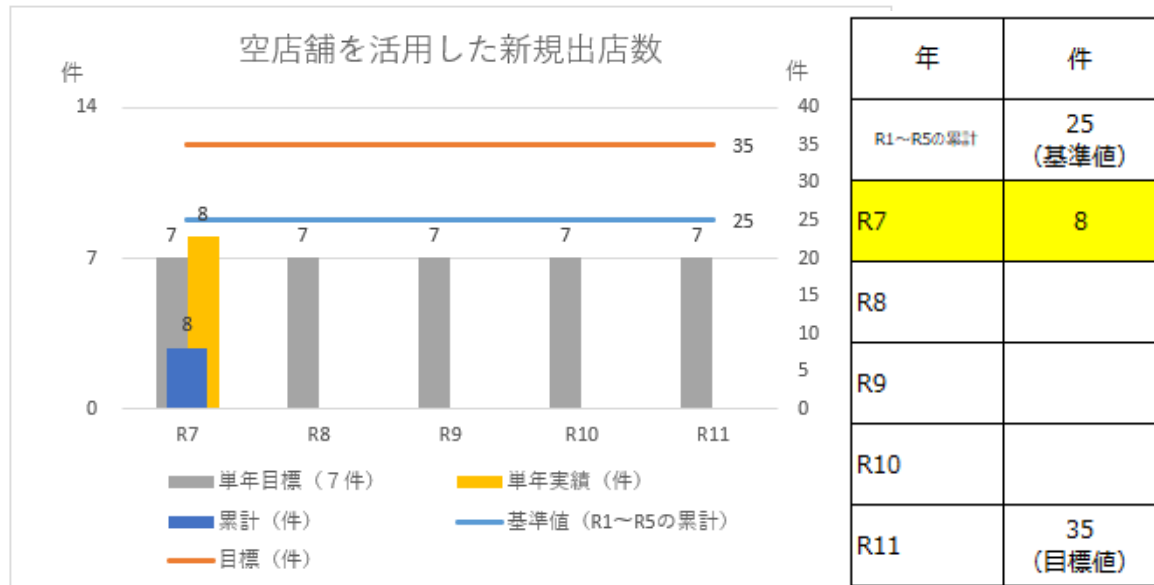
事業実施期間	2023（令和5）年度～【実施中】
事業概要	年4回のマルシェ開催による個店の魅力発信と来街促進。
国の支援措置名および支援期間	なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	マルシェの開催回数を目標指数とする 【事業目標値】 4回開催 【最新値】 2回開催
事業の今後について	主催する体制の確保が困難となり、次年度以降の開催は困難

●目標達成の見通し及び今後の対策

目標数値には達していないものの、基準値からの改善傾向にあることから、事業効果はみられると評価する。

今後は周辺施設との連携や、広域的な周遊導線やモビリティの検討を行うことで、来街者の周遊を促す取り組みを推進する。

(4)「空き店舗等を活用した新規出店数」



▶調査結果と分析

基準値：25 件（2019 (R1)～2023 (R5) 年度累計）

目標値：35 件（2025 (R7)～2029 (R11) 年度累計）

最新値（2025 (R7) 年実績）：8 件

【分析内容】

2025 (R7) 年の実績は8 件となった。第3 期計画期間（5 年間）における目標累計35 件に対し、初年度で8 件の実績は、年平均7 件のペースをわずかに上回り、順調に推移していると評価する。

従来より、中心市街地への出展等の要望は一定数見込まれており、空き店舗等の情報提供および起業支援事業などが、まちなかへの新規出店を後押しする重要な役割を果たしている。

一方で、出店した店舗の定着化や、依然として存在する空き物件の利活用促進が継続的な課題である。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①伊賀市合併処理浄化槽設置整備事業

事業実施期間	2022（令和4）年度～【実施中】
事業概要	合併処理浄化槽の設置費用の一部を助成し、店舗等の住環境を改善する。

国の支援措置名 および支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金【内閣府】 (2022(令和4)年度～2024(令和6)年度) 新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)【内閣府】 (2025(令和7)年度～2026(令和8)年度)
事業目標値・最新 値及び進捗状況	汚水処理人口普及率を目標指数とする 【事業目標値】85.3% 【最新値】84.8% 合併処理浄化槽への転換をおこなうには、個人負担や物理的制約がある為、整備が遅れている。
事業の今後について	・合併処理浄化槽の普及に向け、引き続き啓発活動におこなう ・継続的な助成金の確保

②伊賀市起業・経営革新促進事業

事業実施期間	2019(令和元)年度～【実施中】
事業概要	空き店舗等を活用した起業に対し、改修費・付帯設備費等を補助する。
国の支援措置名 および支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金【内閣府】 (2022(令和4)年度～2024(令和6)年度) 新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)【内閣府】 (2025(令和7)年度～2026(令和8)年度)
事業目標値・最新 値及び進捗状況	空き店舗等を活用した起業に対する補助件数を目標指数とする 【目標指数】25件(年間5件) 【最新数値】1件 年度目標は未達だが、全体の目標は達成の見込み
事業の今後について	中心市街地活性化を目的とし創設された補助制度であるが、経年により各種団体の個別事業にに対する小規模な財政支援となっているため、事業の総合的な見直しが必要。

③空店舗等情報システム整備及びコンサルタント事業

事業実施期間	2020(令和2)年度～【実施中】
事業概要	物件調査と起業希望者への情報提供・マッチング支援を行う。
国の支援措置名 および支援期間	なし
事業目標値・最新 値及び進捗状況	空店舗への誘致(マッチング)件数を目標指数とする 【目標値】10件 【実績値】3件 ・令和6年度調査エリアでの目視調査を実施し、空店舗等情報システムを更新

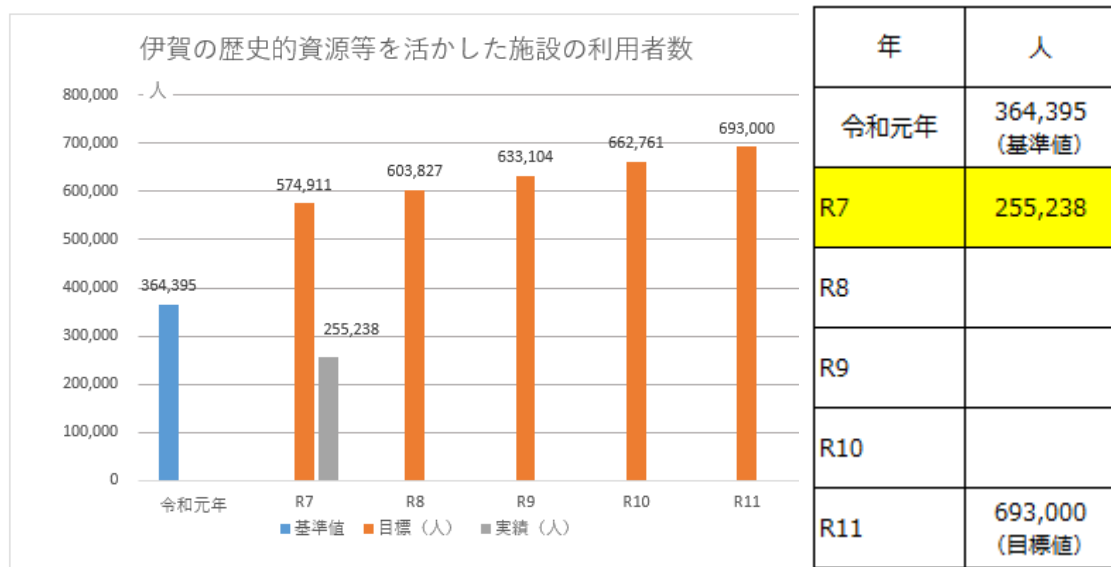
	・ 物件所有者から物件情報の公開について同意を得て、物件概要書を作成し、インターネット上で公開し、入居者を募集し、3 件の入居者が決定した。
事業の今後について	登録物件および入居希望者が少ないという課題があり、空き店舗調査を年 1 回の目視調査から回数を増やし、登録物件数の増加につとめ、入居希望者とマッチングする。

●目標達成の見通し及び今後の対策

1 年目の 8 件という実績は、目標達成に向けた順調な滑り出しである。

今後は、空き店舗の情報の整理、提供を行うことで新規出店数の増加を目指ことと並行して、出店店舗の定着化に向けた取組の検討も行う必要がある。

(5) 伊賀の歴史的資源等を活かした施設の利用者数



▶調査結果と分析

基準値： 364, 395 人／年（2019 (R1) 年度）

目標値： 693, 000 人／年（2029 (R11) 年度）

最新値（2025 (R7) 年実績）： 255, 238 人／年

【分析内容】

令和 7 年の利用者数は 255, 238 人であり、目標値（693, 000 人）、基準値（364, 395 人）共に未達である。その要因の一つが「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」が本格稼働前であることである。

また、既存の施設の利用者数がコロナ禍以前の数値を回復していないことも未達の要因であると考えられる。「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」の整備が完了し、令和 8

年４月１日に開館した新図書館の来場者数が４月、５月で約９万人であり、今後この数字を注視する必要があると評価する。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①交流型図書館運営活用事業

事業実施期間	2026（令和８）年度～【実施中】
事業概要	旧上野市庁舎を利活用した複合施設運営。
国の支援措置名 および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2026（令和８）年４月～2030（令和12）年３月）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	①貸出利用者数、学習室利用者数、イベント参加者数、レファ レンス件数等の合計値 ②イベント開催回数 ①②を目標指数とする 【目標値】①60,000人/年②80回/年 【最新値】①66,680人②86回
事業の今後につ いて	図書館に設置するご意見箱へ届いた利用者のニーズ把握や分 析を行い、ニーズに沿った運営を行う。

②文化振興事業（史跡旧崇広堂、赤井家住宅、入交家住宅の運営活用）

事業実施期間	2025（令和７）年度～【実施中】
事業概要	歴史的建造物の運営活用。
国の支援措置名 および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2026（令和８）年４月～2030（令和12）年３月）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	管理施設の周知と市民の文化的向上を目的とした事業の実施 数を目標指数とする 【目標値】80回 【最新値】23回 ・複数の施設で事業を開催することにより、参加者等が中心市 街地を回遊したことで、商店街の活性化やにぎわいの創出に寄 与した。 ・文化財施設を活用した事業を開催することで、地域の文化財 を再認識していただき、親しみを感じていただく事業となっ た。 ・他団体のイベントと協働で事業を実施することで、相互集客 につながり入場者数の大幅な増加を達成した。
事業の今後につ いて	・中心市街地に位置する文化財施設を活用して、さまざまな文 化芸術に触れていただく事業を実施することで、にぎわいの創 出を行う。・他の団体や施設と協働でイベント開催することで 商業や観光の活性化を図る。

③芭蕉翁関連施設運営活用事業

事業実施時期	2022（令和4）年度～【実施中】
事業概要	3館共通券発行・イベント開催による周遊化。
国の支援措置名 および支援機関	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2026（令和8）年4月～2030（令和12）年3月）
事業目標・最新地 及び進捗状況	目標指数「芭蕉翁記念館」入場者数 【目標値】20,000人 【最新値】9,838人 ・芭蕉翁記念館、史跡芭蕉翁生家、蓑虫庵など、芭蕉翁に関連する施設について、適切な維持管理と公開運営を継続して実施した。 ・各施設では、来館者が松尾芭蕉や俳諧文化に親しめるよう、展示公開、資料解説、施設案内、文化事業等を行い、芭蕉翁の顕彰及び伊賀市の歴史文化の発信に取り組んだ。
事業の今後につ いて	・来館者にとって分かりやすく、回遊しやすい情報発信を強化する。 ・学校教育や社会教育と連携し、子どもや若者が芭蕉翁や俳諧文化に親しむ機会を拡充する。 ・施設の老朽化や保存環境については、優先順位を整理したうえで必要な修繕・改善を行うとともに、新たな美術博物館整備における芭蕉関連機能との役割分担を検討し、既存施設の活用方針を明確化していく。

④忍者体験施設運営活用事業

事業実施期間	2024（令和6）年度～【実施中】
事業概要	上野公園から城下町エリアへと続く導線を「にぎわい忍者回廊」と名付け、地域資源を面的に活用することで、中心市街地への来街者数増加と回遊性の向上を目指す。
国の支援措置名 および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2026（令和8）年4月～2030（令和12）年3月）
事業目標・最新値 及び進捗状況	・開業が遅れたが令和7年8月27日に無事オープンした。 ・様々なメディアに取り上げられ、スタートの情報発信としては良かった。 ・議会で先走った金額が高い内容については、オープンするとむしろ高単価な体験の方が人気があり人も入っている。 ・インフルエンサーなどを活用して自社SNSなどで情報発信の努力はしている。 ・レストランもランチ開発をされて、市民も利用しやすい取組もしている。
事業の今後につ	平日の入込改善に向けた団体などの受け入れを促進する

いて	
----	--

⑤ユネスコ無形文化遺産 上野天神祭のダンジリ行事開催事業

事業実施期間	2016（平成 28）年度～【実施中】
事業概要	ユネスコ無形文化遺産である伝統行事を開催し、次世代への継承と歴史文化施設の利用者増を図る。
国の支援措置名 および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2025（令和 7）年 4 月～2030（令和 12）年 3 月）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	天神祭りの継承や展覧などを目的に練習に係る経費、鬼行列での衣装のクリーニング代、ボランティアへの報酬費等として財政を行う
事業の今後について	・まちの人の減少により、練習やダンジリの曳きなどの技術を継承する人がおらず、市外の技術者などに維持管理を依頼している実情がある。

⑥ ライトアップイベント「お城のまわり」開催事業

事業実施期間	2016（平成 28）年度～【実施中】
事業概要	歴史的建造物をライトアップし、伊賀の魅力を発信することで来街者を増やし、施設利用者増に寄与する。
国の支援措置名 および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】 （2025（令和 7）年 4 月～2030（令和 12）年 3 月）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	目標指数来場者数 【目標値】15,000 人 【最新値】15,000 人 ・伊賀鉄道利用者に対する特典や、提灯を販売するなど、新たな取り組み内容を加えながら毎年開催している
事業の今後について	開始 10 年を区切りにイベントの再考を行うために令和 8 年度は実施しない。

⑦にぎわい忍者回廊エリアマネジメント事業

事業実施時期	2024（令和 6）年度～【実施中】
事業概要	回廊内の整備拠点を活用・連携させ、観光客が心地よく滞在できる環境を整え、回遊性を向上させる。
国の支援措置名 および支援機関	なし
事業目標・最新地 及び進捗状況	にぎわい忍者回廊の核となる旧上野市庁舎と伊賀流忍者体験施設を整備し、令和 7 年 7 月に「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」

	としてホテル、観光案内所・物販、カフェが先行オープンした。また、令和7年8月には「伊賀流忍者体験施設」の運用が開始された。新たな核となる二大拠点を活用し、伊賀市のにぎわいづくりを創出する。
事業の今後について	・「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」の中央図書館の開館することで、施設整備が完了する。 ・事業者間の連携及び市や関係団体の連携を強化し、にぎわい忍者回廊の回遊性向上につなげることが必要。

●目標達成の見通し及び今後の対策

R8年以降は施設単体の魅力発信からエリアマネジメントによる「面的な回遊促進」へシフトし、利用者数の回復、増加を図る。

「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」での集客を他の施設への波及に繋げることで目標達成を見込む。